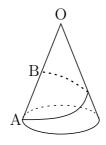
## 平成 19 年度 九州ルーテル学院大学 一般 II 期入学試験問題 数学 I (平成 19 年 3 月 3 日) 70 分

- |1| 次の各問に答えよ .
  - (1)  $\left(\frac{3}{2}x\right)^2 imes \left(-\frac{1}{3}x\right)^3$  を簡単にせよ.
  - (2)  $x=\sqrt{5}+\sqrt{2}$  ,  $y=\sqrt{5}-\sqrt{2}$  とするとき ,  $x^2+y^2$  および  $x^3+y^3$  の値を求めよ .
  - (3)  $\frac{1}{\sin 150^\circ \cos 120^\circ}$  を簡単にせよ.
  - (4) |2x-1| < x+2 を解け.
  - (5) 2次不等式  $x^2-3x \le 0$  および  $x^2-5x+4<0$  を両方満たす整数解の個数を求めよ.
- 2 2次関数  $f(x)=x^2+2mx+m+1$  を考える.どのような x に対しても f(x)>0 となる m の値の範囲を求めよ.
- $\boxed{\mathbf{3}} f( heta) = \sin^2 heta + \sqrt{2}\cos heta + 1$  とする .
  - (1)  $\theta=60^\circ$  のとき  $f(\theta)$  の値を求めよ .
  - (2)  $0^{\circ} \le \theta \le 135^{\circ}$  のとき ,  $f(\theta)$  の最大値・最小値とそのときの  $\theta$  の値を求めよ .
- 4 底円の直径が 10, 母線 OA の長さが 30 の直円錐がある. OA の中点を B としたとき, A から出発し円錐を一回りして B に至る最短距離を考える.



- (1) 直円錐の展開図を描き,最短経路を示せ.
- (2) 最短経路の長さを求めよ.

解答例

1 (1) 
$$\left(\frac{3}{2}x\right)^2 \times \left(-\frac{1}{3}x\right)^3 = \frac{9}{4}x^2 \times \left(-\frac{1}{27}x^3\right) = -\frac{1}{12}x^5$$

(2) 
$$x+y=(\sqrt{5}+\sqrt{2})+(\sqrt{5}-\sqrt{2})=2\sqrt{5}$$
 , 
$$xy=(\sqrt{5}+\sqrt{2})(\sqrt{5}-\sqrt{2})=3$$

したがって 
$$x^2 + y^2 = (x+y)^2 - 2xy$$
  
=  $(2\sqrt{5})^2 - 2 \times 3 = 14$   
 $x^3 + y^3 = (x+y)^3 - 3xy(x+y)$   
=  $(2\sqrt{5})^3 - 3 \times 3 \times 2\sqrt{5} = 22\sqrt{5}$ 

(3) 
$$\frac{1}{\sin 150^{\circ} - \cos 120^{\circ}} = \frac{1}{\frac{1}{2} - \left(-\frac{1}{2}\right)} = \frac{1}{1} = 1$$

(4) |2x-1| < x+2 から -(x+2) < 2x-1 < x+2 ゆえに,次の連立不等式を解けばよい.

$$\begin{cases} -(x+2) < 2x - 1 \\ 2x - 1 < x + 2 \end{cases}$$

第1式を解いて  $x > -\frac{1}{3}$  …①

第2式を解いて x < 3 ···②

① , ② の共通範囲を求めて 
$$-rac{1}{3} < x < 3$$

(5) 
$$x^2 - 3x \le 0$$
 を解いて  $0 \le x \le 3$  …①  $x^2 - 5x + 4 < 0$  を解いて  $1 < x < 4$  …②

① , ② の共通範囲を求めて  $1 < x \le 3$  よって , 整数解の個数は  $2 \ge 3$  の 2 個

2 f(x) の係数について

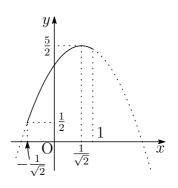
$$D/4 = m^2 - 1 \cdot (m+1) = m^2 - m - 1$$

とする.

f(x) の  $x^2$  の係数が正であるから,D < 0 が成り立てばよい.

ゆえに 
$$m^2-m-1<0$$
 よって  $\dfrac{1-\sqrt{5}}{2} < m < \dfrac{1+\sqrt{5}}{2}$ 

3 (1) 
$$f(60^\circ) = \sin^2 60^\circ + \sqrt{2} \cos 60^\circ + 1$$
  
=  $\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 + \sqrt{2} \times \frac{1}{2} + 1 = \frac{7}{4} + \frac{\sqrt{2}}{2}$ 



すなわち

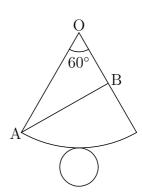
$$f(\theta) = -\left(x - \frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2 + \frac{5}{2}$$

ゆえに  $x=rac{1}{\sqrt{2}}$  のとき すなわち  $heta=45^\circ$  のとき最大値  $rac{5}{2}$  をとり,  $x=-rac{1}{\sqrt{2}}$  のとき すなわち  $heta=135^\circ$  のとき最小値  $rac{1}{2}$  をとる.

$$\boxed{\mathbf{4}}$$
 (1)  $\angle AOB = \frac{2\pi \cdot 5}{2\pi \cdot 30} \times 360^\circ = 60^\circ$  (答は右の図)

(2) △AOB に余弦定理を適用して

$$AB^{2} = OA^{2} + OB^{2} - 2OA \cdot OB \cos 60^{\circ}$$
$$= 30^{2} + 15^{2} - 2 \cdot 30 \cdot 15 \cdot \frac{1}{2}$$
$$= 15^{2} \cdot 3$$



ゆえに  $AB = 15\sqrt{3}$